

第5次結城市総合計画実施計画策定及び行政評価シート

担当部署	部局名	都市建設部		
	課名	水道課		
	係名	業務係		
	記入者		電話(内線)	652

1. 事業の概要

(1) 事業種別 [新規又は継続]	<b>継続</b>	(2) 事務事業 の名称	浄水場施設整備事業	(3) 事業の 優先度	<b>A</b>
(4) 総合計画での位置づけ	① 事業の区分		<b>主要事業</b>	(6) 事業主体	市
	② 施策コード	25101	(総合計画掲載 <sup>ハ</sup> - <sup>ヅ</sup> 80 <sup>ハ</sup> - <sup>ヅ</sup> )	(7) 予算・ 財源等 の種別	事業の性質 普通建設事業費(ハード事業)
	基本目標(政策)	2 安全で住みやすさを実感できるまちづくり(都市・環境)			会計区分 企業会計
	基本施策	5 安全な水を安定供給できるまちづくり(上水道)			財源区分 市単独
	施策	安全で安定した水の供給			予算科目 款 1 項 1 目 1
	施策内容	浄水場施設の更新			予算書上の 事業名称 (予算書 430 <sup>ハ</sup> - <sup>ヅ</sup> に掲載)
(5) 事業期間	開始	40 年	月から	(8) 事務分類	自治事務
	終了	年	月まで ( <input type="text"/> 力年)	根拠法令	水道法

2. 事業の目的及び内容

(1) 対象 (だれに対して・何に対して行うのか)	(3) めざす姿 (意図・どのような状態になるのか)
本町浄水場 林浄水場	水道施設整備基本計画を将来をみすえたものに見直し、本町・林浄水場の施設改修、更新工事を実施することで安全な飲料水を安定的に供給する。
(2) 手段 (事業内容・どのようなことを行うのか)	(4) 事業開始のきっかけや他市の状況など (※ 1-(8)事務分類が法定受託の場合は記入の必要なし)
施設耐震補強設計委託, 工事(林・本町H27), 管理棟, 林第二配水池 林浄水場県水残留塩素計更新工事 施設台帳整備, 長寿命化・更新計画の策定 老朽導水管の布設替 第2送水管の整備 導水管の個別化 施設の耐震化及び応急給水・応急復旧の方針策定	昭和40年に給水を開始しており、耐震化を含めた本町・林浄水場の施設の更新が必要である。 水道水の濁り(赤水)を解消し、安全な水の安定供給を図る。

(5) 事業をとりまく環境の変化(社会環境, 市民ニーズ等)や市民・議会の要望, 意見等とそれに対する対応

昭和40年に給水を開始しており、耐震化を含めた本町・林浄水場の施設の更新が必要であるが、近年の結城市水道事業をとりまく背景としては運営していくなかで、契約者の減少、節水型機器の流通、電気料値上げ、県水受水量の増量化に伴う深井戸取水の減量等、年々課題が増え続け益々厳しくなっている。  
施設の老朽化を背景に、赤水発生に対する苦情が慢性化している。  
今後は県水受水量の増加が見込まれるため、水源の構成変更に関わせた施設の見直しが必要になる。また、受水量の増加に伴う受水費の増加や耐震化・老朽化対策の財源を確保しつつ、健全な水道経営を持続するため、水道料金水準の検討を行う必要がある。

3. 事業コスト

行政評価	実績内容の評価	検討・改善	検討・改善内容を反映
実施計画			
● 予算内訳	実績額(千円)	当初予算額(千円)	計画額・見込額(千円)
	26 年度	27 年度	28 年度 29 年度 30 年度
事業内容			
事業費			
浄水場構造物耐震補強設計・工事	12,204	44,658	
管路更新計画及び事業評価書作成委託		13,036	
林浄水場県水残留塩素計更新工事		5,218	
県道明野間々田線江川地区配水管布設替工事		3,165	
第2送水管の整備計画・工事			
導水管の個別化計画・工事(本町)			
配水ポンプ設計・更新			
耐震化計画			
合計	12,204	66,077	
財源			
国庫支出金(千円)			
県支出金(千円)			
地方債(千円)		50,000	
その他特定財源(千円)	12,204	16,077	
一般財源(千円)			
合計(千円)	12,204	66,077	
補助・起債制度名		水道事業債	

#### 4. 指標の検証（活動指標・成果指標）

指標の名称		単位	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
<b>(1) 活動指標（実施した事業の内容）</b>							
指標名	浄水場耐震化	目標値	千円		44,658		
		実績(見込)値					
指標名	第2送水管布設	目標値	m			実施計画	640
		実績(見込)値					640
<b>(2) 成果指標（事業実施によるめざす姿の達成度）</b>							
指標名	濁り件数	目標値	件		100	100	100
		実績(見込)値					
		達成率		0.0 %	0.0 %		
指標名	水質検査基準	目標値			○	○	○
		実績(見込)値		○	○		
		達成率		#VALUE! %	#VALUE! %		

#### 5. 事業評価

(1) 平成26年度の行政評価結果をうけて、平成26年度に取り組んだ改革改善点があれば記載してください。

浄水場構造物耐震設計を実施。本町1号井建屋改修工事を実施。  
 林浄水場にて老朽化した5号井水位計、7号井ろ過器水中ポンプを更新。本町浄水場にて次亜貯留槽を更新。  
 本町・林浄水場にて、自家発電機設備点検、修繕を実施。また、ろ過池・次亜注入器・多項目水質計等の設備点検を実施。

(2) 項目別評価

評価項目・客観的評価				理由
必要性	事業の必要性	A	必要性は高い	益々必要性は高まっている。
妥当性	実施主体の妥当性	A	妥当である	法的な問題があり、行政が実施すべき事業である。
	手段の妥当性	B	どちらとも言えない	基本計画を見直し、長期的視野を持って計画を立てる必要がある。
効率性	コスト効率 人員効率	B	どちらとも言えない	人員削減・業務委託化等によりコスト削減はされているが、これ以上の効率化を図るならば、抜本的な施設改修が必要である。
公平性	受益者の偏り	A	偏りは見られない	広い範囲に対して便益が提供されており、偏りは見られない。
有効性	成果の向上	C	成果の向上は見られない	浄水場を運営していくうえで、最低限の更新しか実施できていない。
進捗度	事業の進捗	C	遅れている	施設長寿命化計画について、今後検討していく。

(3) 総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください。

平成23年度に実施した施設整備計画見直しについては、現ビジョンとの大きな違いがなく緊急的な施設の改修等はない。今後も老朽化した施設について日常の維持管理にて点検調査を行いリストアップしながら施設改修計画を立てていく必要がある。

(4) 対応策・提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか？

基本計画・施設更新計画を将来を見据えた手戻りの無いものに見直し、またこれを実施する必要がある。

#### 6. 事業の方向性判断

評価主体	27年度以降の事業の方向性	評価理由・根拠
(1) 記入者評価 記入者が評価を行う	<b>改善・改革しながら継続</b> (成果向上・コスト維持又はコスト削減、成果維持・コスト維持又はコスト削減)	注) 記入者は「5. 事業評価」を記載するため、この欄は未記入で結構です。
(2) 一次評価 担当課長が評価を行う	<b>改善・改革しながら継続</b> (成果向上・コスト維持又はコスト削減、成果維持・コスト維持又はコスト削減)	浄水場の目的は、「安心できる良質な水を供給する」ことであるが、現状では施設の老朽化や耐震不足に対する対策を急がなければならない。 このため、最優先して耐震性不足施設の改善と老朽化施設及び設備等の更新を図る。
(3) 最終評価 企画調整会議において評価を行う		上記評価のとおり。